

【R6】 No.5 北海道・沼田町（着地型観光旅行商品開発事業）

地域力創造アドバイザー	虎岩雅明氏（A030）
活用分野	地域資源を活用した地域経済循環、まちなか再生、生活機能の維持、防災減災・危機管理、観光振興・交流関係人口の創出・拡大、移住・定住促進、少子化対策、子ども・子育て支援、地域づくり人材の育成・教育 自治体経営イノベーション、シティプロモーション・地域PR
活用期間（頻度）	令和6年度～令和6年度（月1回程度）
キーワード	#産学官連携 #着地型観光旅行 #地域商社

【目的】

近年の消費者の行動傾向について、購入したモノやサービスを使ってどのような経験・体験をするかという「コト消費」に消費者の関心が置かれていることを踏まえ、沼田町における観光資源調査及び地域活性化調査の実施と、付帯する観光マーケティング及び着地型観光商品（以下「観光商品」という）の開発を目的とする。

【内容】

沼田町×北海学園大学×株式会社まちづくりぬまた（地域商社）が連携し、沼田町における観光資源の調査及び地域活性化調査の実施、そして具体的な観光商品開発と社会実装に向けた伴走支援を担うこととする。

上記を踏まえ、次の内容に示す事項について、効果的となるよう業務を実施する。

（1）大学の沼田町でのフィールドワーク企画および実施

大学が沼田町での観光資源調査及び地域活性化調査のため、年に複数回フィールドワークを行えるように企画と調整を行う。

（2）大学と町民とのワークショップの企画および実施

観光商品の社会実装に向けて町民との意見交換のためワークショップを企画し、ファシリテーターを担い、大学と町民の交流機会を設けるとともに町内での本活動の認知度を上げ、町民の理解と協力を得られるように進める。

（3）産学官連携による観光商品開発に向けた調査業務の企画および伴走

大学からの提案物をベースに実現可能な観光商品となることを目的にブラッシュアップし、モニターツアーの企画およびアンケート調査を行う。

（4）関係機関との協議・ビジネスパートナーとしての仕組みづくり

観光商品を開発する上で必要となる関係機関との調整及び「収益性」のある持続可能なビジネスモデルを構築する。

（5）その他、旅行商品の開発に必要な事項

【成果（見込み）】

昨年度（令和5年度）、沼田町単独事業で産学官連携により本事業を開始、初年度はフィールドワーク・町民とのディスカッション等により、学生より4案の旅行商品の提案を受けた。本年度は地域力創造アドバイザーの力を借りて4案をブラッシュアップし、より社会実装可能な商品2案に絞った。モニターツアーの実施や、どのように旅行商品として販売していくかも検討し、2月下旬に町民を対象とした発表会を開催した。

（案1）バズり体験ツアー…町内の観光スポットを巡り、SNSを活用した動画投稿により「バズる」を体験するツアー

（案2）トマト体験ツアー…特産品のトマトの収穫体験から、実際に自分たちで採ったトマトでピザづくりを行う。



（町民説明会を終えて町長と記念撮影）